

野外活動センター及び青少年ルーム 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】 野外活動センター・青少年ルーム
【指定管理者名】 特定非営利活動法人 大東市青少年協会
【評価対象年度】 令和2年度
【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課

業務内容について評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、休館期間や開館時間短縮があったにもかかわらず、家族、小グループの利用が過去最多を更新したことは、昨今のキャンプブームと青少年リーダーをはじめとするスタッフの利用者目線による対応がうまくマッチした結果だと思えます。

また、コロナ禍により、多くのイベントが中止され、リーダーにも子どもたちにも諦観が広がり、モチベーションが低下している中、オンライン面談によるフォローや YouTube を活用した研修に取り組むなど、WEBの活用により、今できることをすすめることで、子どもも若者も誰一人とり残さないという指定管理者の意識と業務執行能力の高さが伺えました。

施設管理に係る設備等の修繕・清掃では、例年に引き続きワーカーズと呼ばれる青少年協会のリーダーとボランティア協会員で構成されるチームが実施する形を取っており、コロナ禍による臨時休館を逆手に取り、日頃できないきめ細やかな対応をされたことは大いに評価できます。

青少年ルームにおいては、野外活動センターの予約窓口だけではなく、大東市子ども会育成連絡協議会への事務支援や校区子ども会の運営などを行っており、青少年育成に向け重要な役割を担っていただいていることは評価に値します。さらに、コロナ禍による臨時休館に伴うキャンセル処理の対応について、かなりの業務量がありましたが滞りなく業務を遂行されました。

野外活動センターは、野外活動及び集団生活を通じて青少年の健全な育成を図るとともに、自然教育等により、市民の心身の健全な発達と豊かで潤いのある市民生活の形成に寄与することを目的としており、その目的達成に向け施設管理と事業実施に継続的な創意工夫が行われていることを評価します。

利用者満足度について評価

野外活動センターの利用者への「お客様アンケート (236 件)」の回答では、昨年度に引き続きスタッフの対応に満足しているとの意見が多く、特に、初めてキャンプ場を利用される方が増加した中、他の施設では行えないようなスタッフのきめ細やかな接客によるものだと思います。

また、施設の美化に関する高評価の割合が昨年度に比べ高い水準であり、利用者が気持ちよく利用できるように日々、スタッフやワーカーズなどが施設を管理していた努力と意識の高さの結果であると評価しています。

今後も利用者の意見やニーズを積極的に取り入れながら、引き続きサービス向上に繋がる改善に努めていきたいと思えます。

収支状況について評価

コロナ禍による事業中止の損失等により収入が減った上に、感染症対策に係る人員配置による人件費等が増加し支出は高止まりしたため、今期は、1,289,008円（令和2年度に実施された令和元年度分補填を除いた場合は1,606,191円）の赤字運営となりました。令和3年度は、引き続き感染症の拡大防止策を講じながら状況を注視しつつ、さらなる利用率、参加人数の増加や新たな事業の実施に取り組んでいただき、安定的な経営によるサービス向上を実現されることを期待します。

総合評価

野外活動センターは、単なるキャンプ場ではなく、青少年の健全育成を目的の一つとしています。子ども会等と連携し、小学生から始まり中学生・高校生・大学生・社会人、そしてその子どもへとつながる一つの輪になるよう、この施設におけるホスト役となるスタッフ（リーダー）を養成し、運営にかかわっていくという全国的にも数少ない仕組みを構築しており、指定管理者が長年築き上げたノウハウと信用が大いに活用されています。これは、コロナ禍という過去に例のない状況下であっても、いかなく発揮されており、様々な活動が中止される中、行き場のなくなった青少年への寄り添いをはじめ、今自分たちができることは何かを常に考えながら管理運営を実施されました。

また、過去から行われているワーカーズとリーダーによる修繕等の取り組みは、大人と青少年がコミュニケーションを図りながら行うことで、技術や経験の継承が図られているとともに、経費削減にもつながっています。特に今年度は、コロナ禍の臨時休館中も途切れることなく継続して実施されたことは高く評価されます。

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍で通常の運営はできませんでしたが、WEB等を活用しできるかぎりの施設運営をされたことは指定管理者として適切な対応であったと感じています。今後も感染症は予断を許しませんが、昨年度から培ってきたコロナ禍での対応能力を、次年度以降も活かしつつ、アフターコロナの中でもできることを最大限実施してください。

コロナ禍においても、子ども・青少年の健全育成はますます重要な課題であることから、今後も魅力的な施設運営と社会的ニーズを捉えた事業実施の推進に期待します。